

1 メンタルサポートへの取り組み

「生涯あなたの人生を応援します」というメッセージを掲げる和歌山大学にとって、宮西先生をはじめとするメンタルサポートへの取り組みを学内でも共有し、全国に発信できたのは非常に意義のある事だったと思います。

- 1月9日 朝日新聞 朝日・大学パートナーズシンポジウム なぜ若者はひきこもるのか
- 2月7日 朝日新聞 ひきこもり 解決・防止への糸口は…和生も克服経験語る
- 9月2日 読売新聞 大学の實力不登校①「心が癒される空間」

2 防災研究教育センターが設立

和歌山に立地している以上、語るのに避けて通ることができない東南海・南海地震対策。2004年から活動が続いていた防災教育研究プロジェクトをこの4月から組織化し、防災研究教育センターが立ち上がりました。和歌山大学が地域に貢献する大学としての決意をさらに強めるトピックスになったと感じました。

- 1月5日 産経新聞 防災のひと 東南海・南海地震に備え 防災教育研究プロジェクト 今西武教授
- 9月29日 紀伊民報 防災月間インタビュー 防災研究教育センター 照本特任准教授



3 『はやぶさ』を追え! 宇宙研の大プロジェクト

世界初の快挙を達成し、多くの人の心を打った『はやぶさ』。その地球再突入を執念で追いかけた尾久土教授をはじめとする宇宙研スタッフ。和歌山大学ホームページのサーバーは悲鳴を上げ、その後もほぼすべての報道素材には和歌山大学宇宙教育研究所のクレジットが、和歌山大学の名を全国・全世界に発信し続けた大トピックスでした。

- 5月9日 わかやま新報 和宇宙教育研究所来年度から4年一貫で育成
- 6月12日 朝日新聞 あす地球帰還の『はやぶさ』和歌山大がネット生中継
- 6月14日 読売新聞 はやぶさ君 星と消えゆ



4 地域貢献プロジェクト Wi-Fi宝さがし in 南紀田辺

大学ランキング報道を受け、「和歌山大学はまだ新たな価値を作り、地域にも貢献できる事を示せるはずだ」という和田教授の強い思いが有志学生や田辺市の地域の方の心に響き、多くの人を巻き込みながら実現していった取り組み。南紀熊野サテライトも全面協力し、地域の確かな活気を作ったと共に、関わった学生たちも本当に大きく成長した(和田先生談)、作り出す苦しみと汗が見えるトピックスだったと思います。

- 10月21日 わかやま新報 壊れたPCをリユース 和大の和田教授
- 10月27日 朝日新聞 田辺でクイズラリー 和大が技術開発
- 11月8日 日経流通新聞(日経MJ) 無線LAN活用 町歩きイベント



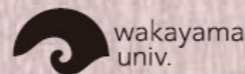
5 附属小×ファミマ わかポン協同開発



教育学部附属小学校から元気なニュースが飛び込んできました。子どもたちの楽しそうな声が実際に聞こえてきそうな取り組みに、twitterやweb上でも「探して買いたい」という声を見かけたのをよく覚えてます。

- 7月10日 読売新聞、わかやま新報 附属小生が協力 「わかやまポンチ」ファミマ試作品
- 10月24日 わかやま新報
- 10月26日 読売新聞 ファミマで販売「わかポン」名物に

2011 HAPPY NEW YEAR!



和歌山大学 2010年

新聞の「見出し」から振り返る

広報室 勝手選?!

ニュースアラカルト

2010年もいろいろありましたね。山本学長の就任から1年半が経ち、変化への胎動が目に見え始めた和歌山大学。学生や教職員の「情熱」や「汗」が垣間見えるトピックスを中心に、「和歌山大学2010」を振り返ってみました。(文責: 広報室 皆藤)

6 第1回 和歌山大学 研究集会開催

和歌山大学の個々の構成員や組織がそれぞれ持っている価値や誇りの気持ち、そして課題を「見える化」していくことで共有し、確認し合おうという山本学長の思いが結実した第1回の研究集会。学生・教職員、さらに学外の教育関係者が集い、和歌山大学の「今」と「未来」について考えました。思いが行動となり何かが始動し始めた、分水嶺の1日だったと私は思っています。

- 8月8日 朝日新聞、わかやま新報 小中高と情報共有を 第1回和歌山大学研究集会



7 国立大学初の 観光学研究科

観光の時代とも言われる21世紀。さらに高い見識と専門性を持つ「観光まちづくりコーディネーター」の育成を目指して設置準備中の大学院 観光学研究科。新設ができることもあり、和歌山大学が広い範囲からますます多くの学生を引き付ける事ができるトピックスの1つになると思います。

- 10月31日 読売新聞、わかやま新報
- 11月5日 産経新聞 和歌山大で国立大学初の観光学研究科

8 熊野古道PRの 360°映像を制作

デジタルドームシアター技術の可能性をさらに広げるコンテンツとして制作中の熊野古道PR映像。まさに和歌山を全国に発信できる素材であり、和歌山大学が地域に貢献できる取り組みだと感じました。

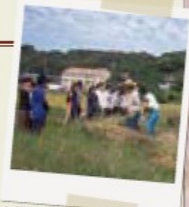
- 11月26日 紀伊民報 古道の宣伝映像制作 和歌山大の学生



9 生きる力を育む取り組み 「米プロジェクト」

実際に地域に入り、初めて会う地域の方と話し、共に作業を行う。こういった実践が学生の生きる力をつけ、本当の意味での学識力、社会人基礎力を育む取り組みになると思っています。和歌山大学にはそういった活動が本当にたくさんあり、このニュースはそれらを代表するトピックスの1つでした。

- 10月7日 朝日新聞 「先生の卵」稲を刈る 和大教育学部・JA連携



10 産学官交流会 和歌山大学見学会

地元企業に和歌山大学の研究シーズを知ってもらうために開かれた初の試み「和歌山大学見学会」。地域に大学の事をより知ってもらうだけでなく、共に価値を見つけていこう、育てていこうという強い思いを参加企業、研究者の方々から感じた、真剣さあふれる空間でした。

- 8月26日 読売新聞、わかやま新報 「大学のこと知って」和大が企業を招き見学会



番外編 起点?! 国立大学ランキング

⇒86国立大学中、85位となった和歌山大学。とあるOBは嘆き、とある教職員は保護者やOBから問い詰められ、そして「このままでは」と思い行動に移した教員や学生たちが多数いた事も事実。さまざまな出来事の起点となるトピックスだったとやはり言えると思います。

- 4月5日 朝日新聞、わかやま新報 「高評価へ努力」山本学長が見解 国立大学ランク付け



wakayama univ. 和歌山大学 http://www.wakayama-u.ac.jp